

10月に引き続き、11月15日(水)第7回KITCセミナーを田町キャンパスイノベーションセンター1F 国際会議室にて開催しました。

今回は、第6回までと少々趣向を変えて、「拡大KITC」とし、ベンチャーを中心としながらもITに関連する方を中心に広くご案内したところ、参加者が学生を含めて100名近くに上ったため、会場には補助椅子をあわせて用意するほどでした。日本のIT業界には数多くの同窓生が活躍しているはずですから、まだまだ氷山の一角ではあります。

野村総研(NRI)といえば、言わずと知れた日本のIT産業のある意味でハイエンドの会社で、20年ほど前に野村コンピュータシステムと野村総研の2社が合併したものです。学生の就職先としても大変人気があるということですが、以前より脈々とわが同窓が活躍している会社だと思えます。

藤沼社長は、1974年に制御工学科修士を出られて野村コンピュータシステムに入社し、その後野村証券のシステム構築に18年携わってこられたシステム開発の先達です。1994年に取締役就任から情報技術本部長などを歴任されて「オープン化」(ダウンサイジング)にも携われ、2002年4月に社長に就任されました。

Wikipediaによりますと、野村証券は日本で初めての商用コンピュータを導入したとあります。まさに日本のソフトウェア開発の最先端でコンピュータ利用を切り開いてきた方です。

## 講演「2010年日本の未来」

この講演のねらいは、現在起こっている社会の変化をとらえて5年後を見据え、企業経営に生かすことにあります。

社会の変化は世界規模の変化と日本固有の変化を捉える必要があります。「社会環境の変化」「規制緩和」「国際環境の変化」の3つを挙げられました。

ひとつめの「社会環境の変化」としては、いくつかの大きな流れが指摘されました。

### 1. 景気の長期拡大

拡大といっても成長率は高くないため、過去の拡大とは様子が異なる。

### 2. 人口減、少子高齢化社会の到来

人口が減るだけではなく、その中でも未成年と労働人口が大幅に減り、65歳以上の高齢者は大きく増加する構造変化があることを認識したい。

### 3. 団塊世代の大量退職の影響

退職すれば退職金が出て、消費する時間が増えるということもあるが、給与の支払額が軽くなるのが企業の収益に直接的な追い風となることも大きい。

### 4. デフレからの脱却と経済の活性化

かなりのタンス預金があるはずなので、それが金融市場に出てくることで経済が活性化する。タンス預金があるという根拠は、市場に流通しているはずの旧1万円札が大量に回収できていないため。

### 5. 日本人の価値観の変化

一例として、NRIで3年ごとにアンケート調査を行って日本の変化を観測しているが、2000年の調査結果では「安いものを買いたい」という意識が強かったのに対して、2003年では何も考えないという回答が目立っている。便利ならコンビニで買えばよい、など。またオタク的な消費も増えている。「安いものを買うことへの疲れ」が見えるような感じがある。

2番目の「規制緩和」としては、これまでに通信・金融・電力など規制(保護)がなくなってきたが、これからは医療・農業・社会保障の分野での規制緩和が進むとの見通しです。

証券会社が例として挙げられました。金融ビッグバンの後、ネット証券のような新しい証券会社が参入したと同時に既存の中小証券会社がだいぶ減って急激な証券会社の入れ替わりがありました。

3つ目の「国際環境の変化」については、アジアが大きく取り上げられました。アジア圏は順調に成長しており、中国・インドの次にグレートメコンサブリージョン(GMS)という経済圏が大きくなりつつあります。経済基盤ができ、消費地としてのアジア圏も非常に重要となってきています。

ひとつの目安として、一人当たりの年間収入が3000ドルを超えると輸入した電気製品が買えるようになるのだそうです。2004年ではアジアの日本以外の国はそれに達していなかった

のが、現在は中国・インドなどが超え始めていて、よい市場になるわけです。

この3つの側面から見た社会の変化が日本の産業に与える影響のうち、例として金融と流通業があげられました。おさいふケータイ、ポイント経済など、IT・通信技術の進化により新しい社会システムが創出されています。

注目すべきこととして、団塊の世代の60歳から亡くなるまでのトータル自由時間は、子供が義務教育から大学を出るまでの教育にかかる時間のだいたい2倍になるそうです。これに対して企業はいろいろな手段で囲い込む戦略に出ています。アメリカでは、セグメントしたターゲット向けにカードを発行し、例えばアメフトファンには試合の情報から入場券の販売などを便利に提供するなど、6000種類のカードを発行し成功している会社もあるそうです。

今後ひきつづき通信が高速化、高帯域化し、またRFIDなども実用局面にはいり、「知を持ったIT」の実現も視野にはいつてきています。

最後にこういった変化の中で日本企業はどうすべきか、コンサルテーションとソリューションを提供されている藤沼社長らしく、多面的に環境変化を把握してこれまでの枠組みを超えた戦略を構築し、ITや先端技術を「適切に使いこなす」ことが必要ということでした。

技術も、まだほとんど実験段階の先端技術、現在使われほとんど改良されているフェーズの中核技術、その後のいわば枯れた成熟技術があり、利用目的にあった技術を選択することが必要です。

最後にアジアとの関係に関するお話があり、質疑応答にはいりました。

NRIでは、現在ソフトウェア開発のかなりの部分がオフショア（現在は中国が中心）になっています。最近中国で講演をする機会がありましたが、1時間の講演後なんと2時間以上の質疑応答でした。質問内容は、日本のビジネスのやり方や慣習・考え方、またIT産業のマーケットに関してのものが中心で、強烈な意欲と成功への執念が感じられました。

ここで会場から、オフショア開発で日本側に必要な力を持つ人間が不足しているのでは？という質問があり、日本の情報サ

ービスも空洞化するかもしれない、オフショア開発もはじめは安いから利用が始まったが、最近は「安い」からではなく「質がよい」ので利用するようになってきているとの答えでした。

中国はポテンシャルが高いし、ベトナムもこれからですがポテンシャルは高いと思われるので、今後どんどんアジア圏が重要になっていきそうです。

### 懇親会

講演のあとは懇親会です。今回は会場に入りきれないほどになってしまい、恒例の自己紹介も限られた方のみとなりましたが、その中でベトナムからオフショア開発の営業に来日中のTDAソリューションズ社長のグエン・ヴィン・タムさん（H14学部H16修集積システム）の姿が目立っていました。設立2年で社員60名以上、順調に実績を積み、ベトナムの国とともに着実に成長中で勢いがあります。わが母校もわれわれも、成熟社会に安住せず常にチャレンジ、成長し続けなければ活力が低下してしまうと実感させられました。

### 最後に、

藤沼社長大変ありがとうございました。機会がありましたらシステム開発やプロジェクトマネジメントのお話もお聞きしてみたいと思います。また、ソフトウェア産業は現在いろいろな問題を抱えていますが、今後こういった場を利用した交流を通じて、同窓生のいっそうの活躍を支援できたらと思います。

(KVSコーディネーター大塚絵理 昭和55年情報科学卒)